

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

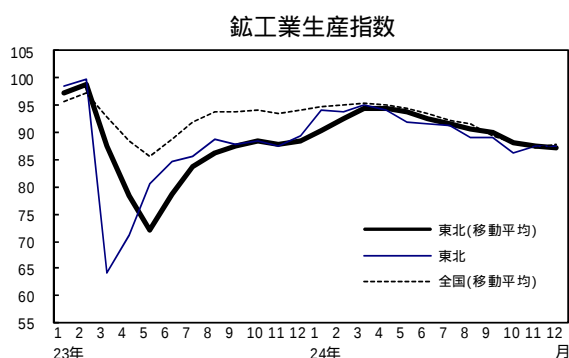
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年11月)	今回(平成25年2月)	
景況判断	弱含み	持ち直し	↑
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まっている	↑
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに増加	↑
雇用情勢	改善に足踏み	改善の動き	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まっている。

電子部品・デバイスは、スマートフォンやデジタルカメラ向けのモス型半導体集積回路(その他 CCD・ロジック)が低調だったこと等から減少した。食料品・たばこは、清涼飲料が冬商品への切り替え等により生産を増やしたこと等から増加した。一般機械は、半導体需要の低迷等により半導体製造装置が低調だったこと等から減少した。情報通信機械は、世界経済減速による国内、ヨーロッパ向けのデジタルカメラの需要減等により減少した。化学は、医薬品が増加に寄与したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
電子部品・デバイス	17.9	2.2	▲1.1	▲4.5	▲4.6
食料品・たばこ	11.8	▲0.3	2.0	2.5	5.9
一般機械	10.1	▲11.0	▲16.4	▲16.1	▲5.4
情報通信機械	9.6	▲8.4	▲5.7	▲9.4	3.5
化学	7.0	▲4.2	2.2	0.7	▲12.8
鉱工業	100.0	▲2.8	▲3.1	▲3.4	▲7.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

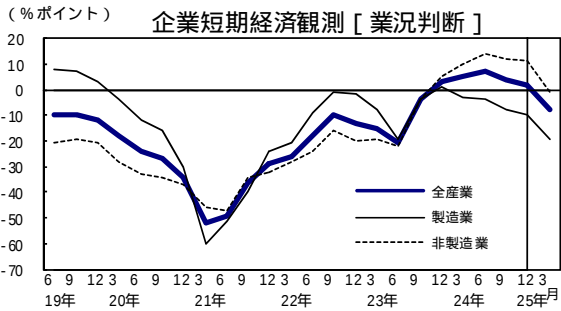
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

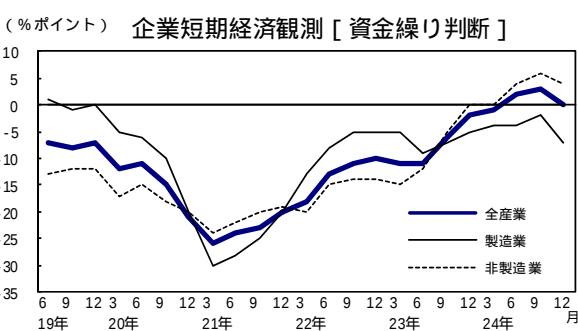
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小しており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

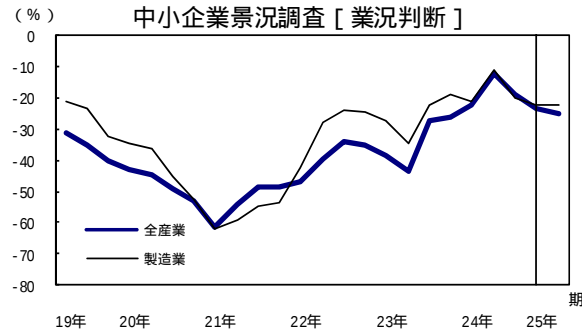
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。25 年 3 月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。25 年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

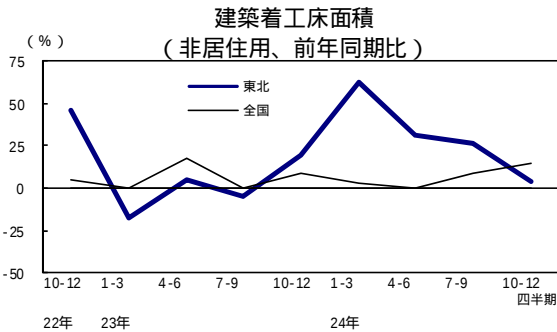
「今冬は降雪量が多く、除雪関連の需要は多い。設備投資に関しては介護施設及びメガソーラー以外は大きな変化は見られない (金融業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	23 年度実績	24 年度計画
全 産 業	3.1	20.9 (▲1.3)
製 造 業	▲2.7	22.9 (▲5.5)
非 製 造 業	13.9	17.9 (6.0)

(備考) () は前回 (9 月) 調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

大型小売店販売額

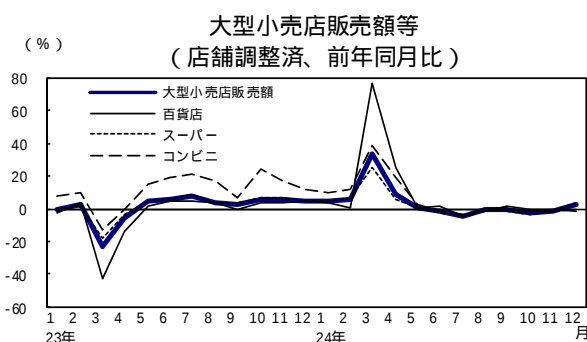
大型小売店販売額は、前年同期比で0.2%減、前期比で2.5%増となった。

百貨店は、10月は、月前半の気温が高めだったため、主力の衣料品の秋冬物衣料が不振だったこと等から前年を下回った。11月は、気温の低下で主力の衣料品が紳士、婦人とも冬物衣料が好調だったものの、家庭用品で震災からの買い換え需要が一巡したこと等から前年を下回った。12月は、主力の衣料品で紳士の防寒衣料が好調だったものの、身の回り品のハンドバッグ等が不振だったこと等から、全体としては前年を下回った。

スーパーは、主力の飲食料品で総菜や鍋物商材が好調だったものの、家庭用品で前年の復興需要の反動があったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「1月に入り、急激な寒さと悪天候のため、来客数及び来街者数が減少している。前年は多かった観光客も減少に転じているので大変苦戦している(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	12.8	2.2	▲1.9	▲0.2
百貨店(*1)	20.6	8.3	▲1.9	▲1.2
スーパー(*1)	11.1	1.0	▲1.8	▲0.0
大型小売店(*2)	12.3	4.9	0.1	2.1
(季節調整値)(*3)	(▲1.2)	(0.5)	(0.4)	(2.5)
乗用車(*4)	71.9	49.7	13.1	▲5.7
(季節調整値)(*4)	(9.4)	(3.6)	(▲4.9)	(▲13.1)

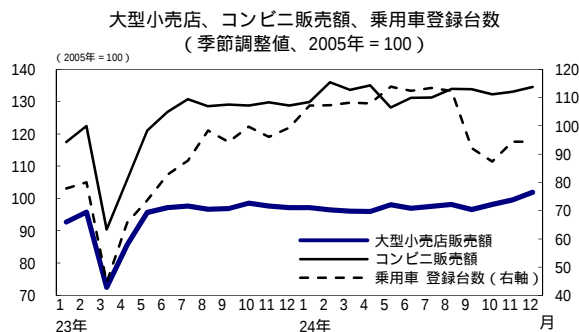
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

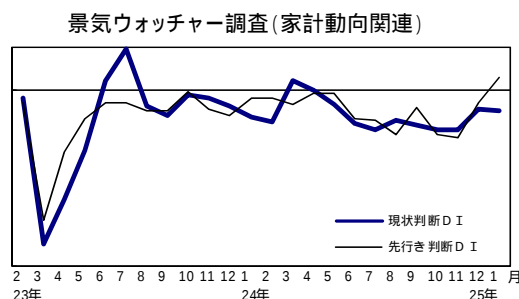
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



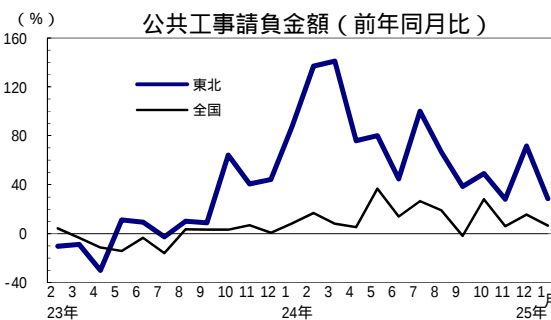
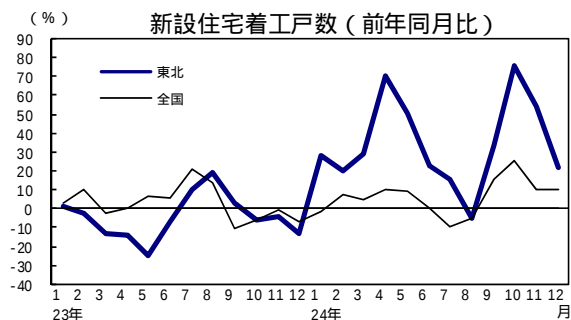
大型小売店販売額、コンビニ販売額は店舗調整前



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

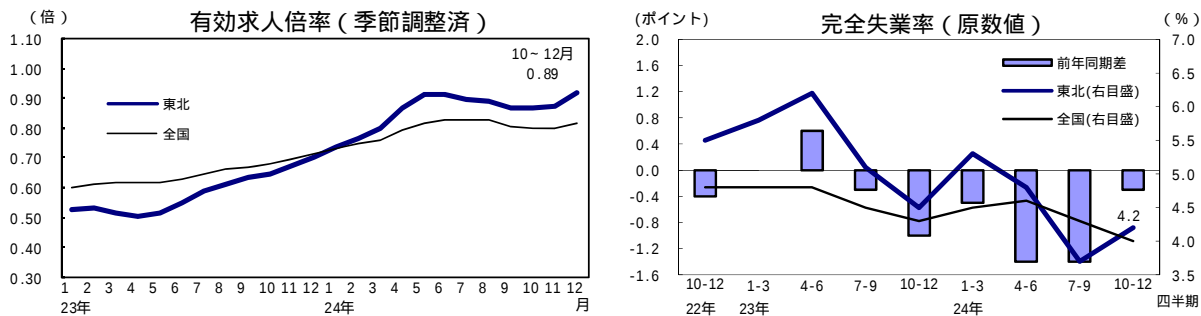
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



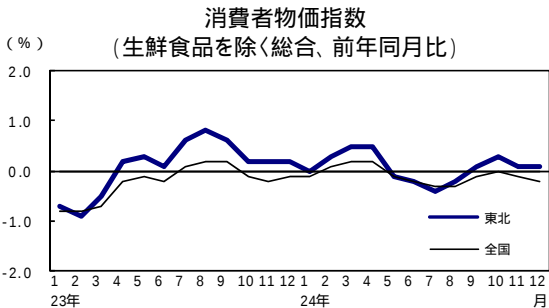
(備考) 23年1 - 3月期から7 - 9月期の数値は補完推計値であり、23年1 - 3月期から7 - 9月期及び24年の7 - 9月期までの前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]
「基幹産業である製造業の求人が前年同月の半分以上になっている。本来、不況に強いといわれる食品関係製造業も求人は前年同月より60%以上減少している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	125	123	117	120	38
(前年比)	▲20.4	▲21.2	▲26.9	▲0.8	5.6
負債総額	467	408	582	246	101
(前年比)	▲19.5	19.5	▲21.4	▲54.7	▲43.2



- 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]
<現状>
・震災による建て替え住宅関連の仕事は少し落ち着いてきている。その他の建物等の話は聞くようになったが、実際に着手するまでは少し時間がかかりそうである (設計事務所)
<先行き>
・今月下旬から2月後半まで、当市の中心市街地で冬季イベントが矢継ぎ早に開催される。鉄道会社の旅行商品とも抱き合わせをして、県外及び地域外からの来客数も多くなると期待している (商店街)

